

北小淵の大慈寺

吉田 光良 調

大慈寺は北小淵の信号北東、八幡神社の裏にある。現在の西成出張所の前身である西成村役場が一時期間借りした寺でもある。

所在地・・・北小淵字田島 3273

創 建・・・寛文 8 年正月（1668 年）名古屋総見寺 4 世「北禅和尚」が中興開山。

宝永 5 年 8 月（1708 年）公に認められ総見寺の支配所となった。古来、南接する八幡社をはじめ、山王社、天神、天王の社僧であった。

境内は二反部以上ある。正式名は普門山「大慈寺」。

宗 派・・・臨済宗妙心寺派本山直末 大赤見「栽松寺」所属

檀 徒・・・古来、北小淵の吉田一族数戸があったが、途中から尼院となったことから時之島の「自昌院」や大赤見「栽松寺」に贈与。現在檀徒はない。

当寺に関する主な話題

・・・明治初年（1868）に住職であった宜周尼僧が「宜周尼学林」を開設。

遠近より尼僧が集まり学ぶ者多く、寺名は遠く知られようになったと言われる。宜周尼の後継の住職となった恵鏡尼（明治 35 年没）は「蓑虫山人」の姉である。

・・・大正元年（1912）9 月 22 日台風により、西成村役場が甚大な被害を受けたため、2 年間、当大慈寺に仮役場が設置された。

その他・・・10 数年前に住職がなくなってからは後継者がなく、現在は町内の寺総代の管理下にある。住職により手入れされていた素晴らしい境内の苔庭は、残念ながら今は荒れ果てている。

[注]

蓑虫山人(みのむしさんじん) 蓑虫仙人とも呼ばれる は天保^{てんぽう}7年(1836)岐阜県安八郡生まれ。漂白の絵師、奇人で足のおも向くままに日本60余州を絵筆とともに蓑を背負って巡り、優れた風景、さらには日本の土から生まれた土器の類まで写生した。東方地方をよく訪ねたといわれている。明治33年に名古屋市東区の寺で亡くなった。

(参考図書)・・・『一宮市史西成編』等